

第2回四日市港港湾脱炭素化推進協議会 開催結果概要

1 日時

令和6年1月26日（金） 13:30～15:30

2 場所

四日市港ポートビル2階大会議室（WEB併用）

3 議事概要

- ・事務局から、スケジュール、第1回協議会等での主なご意見と対応、「四日市港港湾脱炭素化推進計画（案）」について説明した。
- ・お示しした計画案をもって、パブリックコメントを実施し、そこでのご意見と、協議会でのご意見等を踏まえて取りまとめた計画最終案を次回協議会でお示しすることとした。
- ・四日市市、国土交通省、四日市港管理組合、民間事業者の最近の取組内容について報告した後、計画案等についての意見交換を行った。
- ・霞ヶ浦地区沖合や石原地区の土地の活用に向け、新たな事業展開用地等の確保を検討している企業等に対し、事業内容や必要となる用地面積・時期等についての情報提供を依頼した。

4 主な意見概要

- ・カーボンニュートラルの実現に向けては、水素・アンモニアに限らず、様々な手段があり、長期的にどれが優位になるか見極めているところである。合成メタンは、既存のインフラ設備を活用でき、導入スピードも調整できることから、有効な選択肢と考えており、経産省の審議会でも、「水素等」として、アンモニアや合成メタン等が併記されている。これらを踏まえ、本推進計画への合成メタンについての記述の追加を検討いただきたい。
- ・企業にとっては、短期的にはコストが課題となるかもしれないが、長期的に見れば、四日市港が国際競争力のある港になっていき、短期的なコストも十分に回収できるのだという未来図を共有して進めていっていただきたい。
- ・来年度以降は年1回以上の協議会開催を予定しているということで、確実に開催していただきたい。現在の目標について、順次明確にできるものは、明確にさせていただき、PDCAサイクルが十分に機能する流れができることを期待したい。
- ・四日市港においては、港湾における脱炭素化に向けた取組や、土地利用の方向性、新たな長期構想の策定について、しっかり詰めていただきたい。

- Jブルークレジットは、2020年度から取組が開始され、国内でも発行が進められている。四日市港でのクレジットの認証・発行も視野に入れて、まずは、実証試験などを進めるということで取組に期待したい。
- 新しいことを始める際、どのようなメリットがあるのかという話になるが、メリットではなく、取り組まないことのリスクを考えて欲しい。取り組むのであれば、他に先がけてやった方が、先駆者メリットがある。本日も、脱炭素化の取組に乗り遅れないようにとの話があったが、できればそれ以上に、先駆者として取り組むことを期待したい。

以上。